

海外招聘講演

「中医の復興」

北京厚朴中医診所有限公司 総院長

徐 文 兵

1949 年中華人民共和國建国以降、西洋医学の発展に伴い、中医学は非科学的と見なされ、軽視し排除する風潮が高まりました。毛沢東は国家戦略的方針を打出し、1958 年に、衛生部に対し「中国医学は偉大な宝庫であり、発掘し、発展させなければならない」と発展の方向性を示し、その第一歩として北京、上海、広州、成都に中国中医研究院が設立され中医学の継承と発展の土台が出来上がります。

1970 年代末には、当時の衛生部長の崔月犁氏が、1982 年の衡陽会議にて「中医学の西洋化」に反対し、第 5 版教科書刊行を基に、中医学教育の内容を標準化し、高い素質を持つ中医人材の育成運動が実施されます。

最も中医学の力を発揮した場面は、2003 年の SARS（非典型肺炎）の流行時で、感染症対抗作用を持つ中医学が起用され温家宝氏や呉儀氏など国家指導者の下、SARS 対策に中医学が大きく貢献し中国医療制度、公衆衛生システムにおいて確固たる地位を獲得しました。

しかし、中医学の発展の道のりは平坦ではなく、1990 年代末、インターネットの普及に伴い、反中医学的な言論がネット上で拡散され、大きな波紋を呼びました。そこで中医学界は、中医学の科学性と実用性を、豊富な理論と実践法を唱え継続的中医の復興に努めます。

個人的活動としましては、2004 年中央テレビ局（CCTV）の『中華医薬』という番組にて、外国人を対象に中医学文化を発信し、また 2008 年には中央人民ラジオ放送局にて著名な司会者の梁冬氏と『黄帝内経』をテーマにした対話番組を通し、奥深い中医学の知識を一般の人にも理解しやすく解説し、実用的な健康法と思想哲学を伝え、この番組影響力はとても大きく、リスナー数は国内外約 2 億人となり、中医に関心を持つ人口が圧倒的に増加します。

2007 年には中国衛生部が師承教育（弟子制度）を打ち出し、それに伴い厚朴中医学堂を創設し、師承教育を採用し、卒業後すぐ臨床で即戦力となる優秀人材育成し、2025 年までに 520 名以上の臨床班修了生を輩出しました。本診療所の臨床医師は全て本学校卒業生の医師であり、累計 25 万人以上の診療実績があります。

本校の一般の人対象の中医学の短期合宿講座も好評で、非薬物療法（按摩、かっさ、お灸）を習得し、約 3 万世帯にその成果を届けています。

コロナの流行時には、至る所でロックダウンが行われ、診療所、学校も余儀なく休院経営停止を求められました。そこをチャンスと捉え、2020 年 3 月、どこにいても誰でも参加できるオンライン基礎講座を開始し、約 5 年の間に 8 万人以上の学生が中医学を学んでおり、家庭においても、実践的に中医学を活用できると好評です。

2024 年 5 月には、世界に最先端事業の発信する上海市嘉定区江橋鎮国際ビジネスエリアに厚朴中医本部を移し、1 万㎡の面積に、50 室以上の診療室と治療室と各教室を設け、教育はもちろん、鍼灸専門疾患治療や非薬物療法、心身健康カウンセリング、中医学健康診断等総合的なサービスを展開しています。また教育に関しては、全日制教育機関の認可を取得したので、今後は世界中の留学生を受け入れ中医学の更なる普及活動に努めていきます。